

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
1	学級数と教員数はルールで決まるというのは仕方がないと思いますが、教員が学級を管理できない場合、教員の技術がなかった場合に、結果補助する先生が3名入られていた場合もあるので、そういう観点だけで見ると、学級数が少なくなると運営しにくいという考え方にすぐに行くのは現実的ではないのかなと思います。 教職員数の数のみをもってというのは、見直していくべきではないかと思います。先生の能力は加味されていませんので、例えば新任の先生であれば、補助をつけてあげるべきだし、負担を軽減する意味では、ここだけを持って適正配置というのは違うのかなと思います。エビデンス、科学的根拠も含めて、そういうところを示していくことがこれから必要な事であると思います。 基本的には1ページの小学校・中学校の表です。児童・生徒数に応じて学級数が決まります。それに依拠して教職員数が決まります。 四万十町では、特別支援教育について、町の経費をもって配置をしております。これは、あくまでも先生の能力云々ではなくて、やはり児童のことを思って、特別支援教育で必要がある場合に認めて配置をさせていただいているところです。特別支援に関わるお子さんがいらっしゃる場合は、この基準通りの配置です。複式学級においては、大変厳しい現実があるということです。特別支援学級の設置があれば、1人先生がつきます。設置が無く、かつ必要がある場合は特別支援教育支援員の配置をさせていただいております。 複式でも、完全複式の場合は、大変厳しい状況です。これを解消しなくてはならないという想いで、計画を定めているところです。 特別支援教育については、四万十町も力を入れているので、しっかりとした支援ということで、統合になる・ならないを別にして、当然考えていきたいと思っております。
2	不登校になった場合に受け入れる施設はありますか。 不登校で学校へ行けなくて困っているお子さんもいらっしゃいますが、基本的には校区がありまして、例えばこのエリアは七里小学校ですよ、このエリアは米奥小学校ですよという校区があって、その学校へ行くわけです。不登校になったから別の学校へ集めて来てくれということはありません。ただ、ご家庭の事情によって、違う校区の学校へ通う場合は、教育委員会に諮って認められれば、校区外就学となります。それは、不登校に限らず、様々なケースがあります。 窪川中の道を挟んで向かいに教育研究所が行っております教育支援センターがあります。そこで、お子さんが教室へは入れない・保健室へも入れないけれども教育支援センターへは行ける場合には、親御さんにそこまで送ってもらって、そこで学習ができるような体制を組んでおります。
3	— この松葉川地区は、単独校では適正規模を満たしておりませんが、2校を合わせて考えると適正規模を満たす際どこどこであり、判断が大変難しいところです。この点について、ご意見やご質問はありませんか。七里小にそのまま残してもらいたいということは、もちろん町も分かっているんですが、児童数の関係でどうしてもこういう計画を立てざるを得ないわけです。
4	米奥の父兄の方々と話をさせていただく機会があったときに、どうしても児童数の減少によって統合というのは仕方がないことなのかなと、私の想いですが、松葉川地区に2校合わせると条件満たしますよね、なんとか松葉川地区に1保育所、1小学校は残せないかなと思っております。 地域の方々といろいろと七里も米奥も、地区民運動会や沈下橋祭りや種々のイベント等活動をいろいろとやっているところです。そういうところを残していきたいと思います。 窪川小へ統合するということであれば、地域の方々とのコミュニティが無くなる、薄まることは問題なのかなと思います。 単独校では人数が育たないけれども、松葉川地区としては満たしているので、1校は是非残してもらいたいということですね。
5	運動会も、地域の方々も呼んで開催していますので、子どもさんが元気な姿を見ていただいたら、地域の方々も元気になると思います。地域の方々今まで密接に築きあげてきたものが、統合により無くなってしまうのは問題だと思います。 計画の通りのご意見であります。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
6	人数が減ることでデメリットが多いような記載ですが、学習能力が落ちるとか、コミュニケーション能力が低いとかいうことはありますか。 小学生同士、同年齢の交流をメインに考えておられるようですが、同年齢同士の交流より学校に限らず多様な年代との交流できることの方が良いのではないのでしょうか。 少人数の学校の良さは見ていただいていますか。 四万十町内の学校、ほとんどが少人数の学校です。この適正配置計画を実施して大規模学校になるかという、全国的にみれば中規模の学校になると思われます。 小さい学校も含め、それぞれの学校に良さがあります。指導の面では、きめ細やかな指導、先生とも距離が非常に近い関係で、運動会でも全校児童が満遍なく全ての競技に参加できる、それと地域との距離も近いところも良さであると思います。 大きな学校でいうと人間関係、子ども同士の学び合い、社会性も向上するというのが一般的に言われております。教育活動面では、授業において多様な意見・考え方に触れる、新学習指導要領について、小学校は来年度から、主体的・対話的で深い学びということで、教育活動を進めていかなければなりません。 メリット、良さが大きな学校・小さな学校双方にあります。また逆にデメリットも双方にあります。良い悪いというところでは表現をしておりません。 学校運営面で安定した教職員数、七里小においては、しばらく4学級編制が続く状況が見込まれます。4学級ですと、教員の配置が6名となります。校長先生、教頭先生と教諭が4名です。そういった中で子どもたちを複式になるクラス、ならないクラスで運営しなければならないわけです。複式学級は先生方が創意工夫されて授業を行っていただいております。頭が下がる想いです。45分の授業の中で、上手に持っていかなければ、例えば1年生・2年生が1学級になりますと、1年生を教えている間に2年生は自学や学び合いをしていかなければならない。それを否定しているということではありません。ただ、学年において、1人あるいは2人、そういった中で果たして、主体的・対話的で深い学びができるのかなと心配するところです。それぞれの学年において先生が学年ごとに向き合うスタイルが子どもたちの教育環境には望ましいことではないかと思えます。 今回、大事にしていきたいところは、一定規模の児童生徒数の確保がされること、子供の数に応じて教員数も決まってくるので、大きな学校小さな学校のメリット・デメリットありますが、一定の児童生徒数によって、先生方がしっかりと子どもたちと向きあうことが重要であると考えます。
7	松葉川地区で1校に統合するとなった場合に、校舎位置はどうなりますか。通学手段はどうなりますか。 令和3年5月の児童数をもって、またその後の児童数も1学級10名、1小学校で60名以上が見込める場合は、松葉川地区で小学校を残すとなっております。校舎位置がどちらかということはまだ決まっておりません。現在のところは、松葉川地区で残すのか、窪川小と統合するのか、計画の数字だけをみると、60名を超えておる状況であります。令和3年5月にならないと、どちらへということはお出しにくいだろうということで出しておりません。仮に学校が残るようになった場合には、スクールバス等について検討していきます。
8	窪川小との統合が決まったら、小中同じようなメンバーで進むことになりますよね。何かのきっかけでグループに入れなくなったりすることが懸念されます。現在であれば、小学校で何かあっても中学校で変われるチャンスはあるのかなと考えます。 小規模校は、児童も教員も少ないですが、児童それぞれに役割があります。窪川小との統合が決まれば、目の目を見ないというか、役割がない児童が出てくるのではないかと。 町が進めるのは、一気に大きな学校へ集約したいのではなくて、それぞれの地域で学校を残しておきたい想いがあります。単独の学校では数が育ちませんが、一定の規模を満たしたならば地域にしっかりと学校を残しておこうと、どちらかといえば小規模校の方が良いんですが、最低のラインだけは確保しておきたいということで、一定の集団を形成したいという想いで、統合という計画を出しております。この松葉川地区では1校を残すという考え方でありますので、仰るように小規模校の方が動きが良い部分があるわけですので、それぞれの地域に学校を残しておきたいということの現れです。 松葉川保育所の運動会を拝見しましたが、規模がぼちちりですね。小規模の保育園の良さが出ていたと思います。松葉川地区で1校に統合するならば、ああいう雰囲気になるのかなと感じました。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
9	窪川小の校区の児童を、希望があるならば校区の見直しをして周辺の学校へ分散させる考え方はありますか。 そういったご意見も出ておりました。考え方としては、そういった発想もあると思います。ただし、昔からの校区の縛りの中で、逆に分散させるというのは現実的には厳しいのではないかと考えます。窪川小の校区を分けるというところが非常にネックになってくるのではないかと思います。将来的に分散して、そういった形が継続して続くかというところは見方によっては厳しいのではないかと考えます。
10	松葉川保育所で学校統合に関するアンケートを実施しました。いろいろなご意見がありまして、児童数が少なくなっているのでは仕方ないというご意見、メリット・デメリットが当然あるだろうし、そのメリットが感じられないなら統合は嫌だなというご意見や、松葉川地区に小学校1校かつ保育所も1つ残してもらいたいという意見が多かったように思います。統合して人数が増えることによって良くなることもあるとは思いますが、七里小が無くなるというのは単純に寂しいという想いです。 人数が確保されるならば松葉川地区に1校という計画ですが、保護者・地域に人数を確保してくれとお願いするだけでなく、町としての取組としてはどうなのかなと思います。 七里小は、町営住宅の影響が大きくて、住まわれている方の年齢層が上がってきてはいますが、町営住宅の建設は良かったんじゃないかなと思います。都会から見て自然がいっぱいでいいなという話も聞きます。一戸建ての住宅の建築等も検討してください。 個々にそういったご意見も計画を立てる前から出ておりました。行政自体も手当をしていないということではありませんが、ハード面は見えにくいかなと思います。そういったところは町長の、これが松葉川になるのか、東又になるか、立西になるか、あるいは大正・十和なのかということにつきましては分かりませんが、地域を大事にしていく気持ちの中で施策を考えていっておりますので、それが全12小学校区、窪川小は構わないかもしれませんが、というのはなかなか厳しいかなと思います。そういったことをこれからどう考えていくかにつきましては、魅力ある特色ある学校づくりというところにおいて、ICTは四万十町は高知県内でも早いうちに電子黒板やデジタル教科書、タブレット等の導入を行ってきて、教育環境を整えてきた経緯もあります。ふるさと教育・学習も、七里小は七里小で特色ある教育をしておりますが、国際地区民運動会もそうですし、魅力を発信していくことが大事でありまして、来年度から四万十町全体で取り組んでいかなければならないと考えております。
11	私たちは、ここ松葉川で成長して生活しているので、ここの良さが逆に分からなかったりするんですよ。外から見て、松葉川、窪川、四万十町良いじゃない、移住してみたいというのもあると思います。ここの保護者でするので盛り上げていかなければいけないし、町と連携して一緒に盛り上げていかないと、児童数が維持できないと思います。人数や世帯数はやっぱり減っているんで、ここで生活していたら分かると思いますが、長い目で見れば減っていきますよね。なんとか維持していきたい、盛り上げていきたいと思っているので、町と一緒に盛り上げていきたいと思っています。 -
12	移住してきて、子どもたちも伸び伸びと生活しています。サイズにあった教育というところも、子どもたちを見ていると、自分の理想としている環境に來れたなと感じています。そういうところをどう維持していくかについては、自分の中では良い案は思い浮かびませんが、保護者としてはここを残したい、同じような気持ちの方は都会にもかなり多い人数いて、来てもらえる何かを与えられた時間の中で考えていかないといけないと思います。 -
13	説明の中で、四万十市の適正規模の紹介があったかと思いますが、他の自治体において四万十町の適正規模を下回る人数規模を適正規模とする自治体はありますか。 1学級が10名を下回る場合ということでしょうか。
14	そうです。四万十市と四万十町は少し違うので、いの町や仁淀川町等の四万十町と同じような環境のところはありますか。 四万十市を紹介したのは、近隣の自治体でということがありまして、それと近年において計画ができたということもありまして、お示しをしたところですよ。今日の時点では他の自治体について詳細を把握しておりませんので、お答えしかねるところです。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
15	分かれれば参考に教えてください。 この地区では、保育所は松葉川保育所1つで、小学校に進学する際に七里小と米奥小に分かれて、中学校に進学する際にはまた一緒になってというのは、違和感を感じつつ、生活を過ごしてきました。七里小、米奥小それぞれ単独で残るのが難しいのは今日参加している皆さん感じておられるかと思います。 松葉川保育所は土砂災害の危険がありますし、七里小も米奥小もそうですが、七里小は避難所の指定も外れましたし、それを何とかしたいということもあり、砂防堰堤の話もでています。児童を守るため、県民を守るためにということだと思いますが、町の危機管理課の所管するところもあろうかと思いますが、防災の観点から松葉川地区の1保育所2小学校を一緒に考えていただきたいです。 結構、移住の相談が町外、県外からあります。町内への移住では松葉川が一番最初に出てくることが多くて、住むところがないと私たちも紹介ができません。仮に住むところがあって、全部紹介できたら、米奥も七里も確実に60人は超えると思います。 空き家になっているところを移住者にというのは、どの地区も厳しくなっていると思うんですけど、町長部局との施策を一緒に進めていっていただきたいと思います。移住者が望むことは四万十町の魅力でもあると思いますので、意識していただければと思います。 ユネスコスクールは四国で初のことでありましたが、国際地区民運動会もしている中で、新学習指導要領、特に英語、ICTは、現在の学校の体制と適正配置がなされた後とは、良くなりますとは書いておりますが、具体的にどのように持っていきたいのか、もう少し説明をいただきたいです。 施策をどう取っていくかということですが、この計画を立てたのは町です。町長を本部長、教育長を副本部長とする会で決めたところですので。町としてこの計画を立てたわけですので、立てた以上はしっかりとその地域は守っていかなければならないわけです。統合する・しないに関わらず振興策を図っていかなければならないわけですので、人口施策もそうですが、産業振興策もそうです。これにつきましては、町長として当然取っていかなければならないわけですので、栄えるために何らかの施策を打つというのが町長としての役割だと思います。そういうご意見があったということを伝えて、そういうことを期待しましょう。私たちもしっかりと伝えたいと思います。 私たちは教育委員会で、数というのは、あんまり言い過ぎたらいけないわけですが、現実として突き詰められていますので、この数でないと、この先生の配置はないというのがあるわけですので、こういう計画を立てたということもあるんですが、そういう現実も見ながら、施策についてはご意見があったと思います。
16	移住者の支援等を松葉川青年団がせっかく立ち上がったので、移住者アドバイザーのような方が何名かいると思いますが、その方々以外にも、若い年代ががんばっておるので、もっと口利きができると思います。 小学校の方で、まだ四万十町の方までは来ておりませんが、専科、俗にいう専門の先生、英語であれば英語の先生、現在、窪川小では音楽の専科ということで専門の先生が来ております。音楽に関しては、その先生にお願いして教えていただいている状況です。例えば、大きな学校になりますと、ひょっとすると専科の先生の配置がなされてきて、例えば英語の先生が配置をされてとか、それによって担任の先生が教えていたのが、教科によっては専科の先生が専門的に指導していくことが可能になると考えます。しかし、確実性でいいますと、配置されてくるようになるか、国の方は配置も目指すとのことですが、それが町内のどの学校にということまでは分かりません。 そうかといって、窪川小以外の学校においても、魅力ある特色ある学校づくりが求められていますので、集中投資というところも一つ考えられます。 それと、先生のOBで協力してくれる方々、これは理想ではありますが、確実にそうなるということではありませんが、地域の力ということにもなりますが。 新学習指導要領に沿った形で対応ができていくようなところについては、学校現場もそうですが、地域の力も借りながら、より深めていくことができればと思います。個々に何を深めていくということについては、ICT機器を各学校に導入しておりますが、これもしっかりと活用して活かしていくことが大事であると考えます。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
17	英語に関しては、中学校の英語の先生もいるので大丈夫かも知れませんが、ICTに関しては専門的に学習されている先生はいないんじゃないかと思います。それは、他市町村でも同様と考えます。ICT機器を導入してから年数も立つので、具体的な成果があればお示しいただきたい。
	モデル的に十川小中において、ICTの効果的な活用というところで、十川小では総務省の事業で絆プロジェクトにおいてICT環境を整えたということです。それを活かしながらということは考えております。その他の学校ではないということではなく、全部が全部足並みを揃えてできればよいわけですが、ICTに長けておる方を各校に配置というのは、全部が全部は難しいかも知れませんが、今の先生方がICTを活用する取組、あるいは先生方がおられますので、そういった中において効果的な運用をしていただきたいですし、こういったところを伸ばしていきたいというのがあれば、そういうところは町としてしっかりと支援をしていかなければならないと思います。
18	私は移住者ですが、地区の保護者の方に大変良くしてもらって、学校がいま、この地区にあるので、移住者が安心して来れる環境にあると思います。
	令和3年5月の児童数をもって判断ということではありますが、今日の説明会をもって終わりではなく、何回か足を運びながら、声を聞かせてもらいながら、松葉川地区に残すのか、どういう形になるのか見ていかなければならないと思います。